



平成29年度「全国学力・学習状況調査」三股町の結果について



本調査は、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象とした教科に関する調査（国語、算数・数学）と児童生徒質問紙調査です。今回の調査によって測定できることは、学校における教育活動の一部ではありますが、結果を真摯に受け止め、今後の指導に生かしていくことが大切であると考えています。

町教育委員会といたしましては、この結果を分析し、児童生徒の学力や生活習慣の向上に向け、取組の重点を定め、各学校の実態に応じて支援を行ってまいりたいと考えています。

また、子どもたちの健やかな成長のためには、家庭、地域の協力が欠かせません。今後とも各学校へのご理解とご協力をお願いいたします。



1 平成29年度「全国学力・学習状況調査」の概要について

○ 実施日

平成29年4月18日（火）

○ 対象

小学校第6学年（237名）及び中学校第3学年（255名）

○ 目的

- ・ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・ 教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○ 内容：教科に関する調査（国語、算数・数学）

- ・ 主として「知識」に関する問題（A問題）
- ・ 主として「活用」に関する問題（B問題）
- ・ 生活習慣や学校環境に関する質問紙調査
児童生徒に対する調査 学校に対する調査

2 結果の表記について

各教科や児童生徒質問紙等の結果については、以下を基準として表記しています。

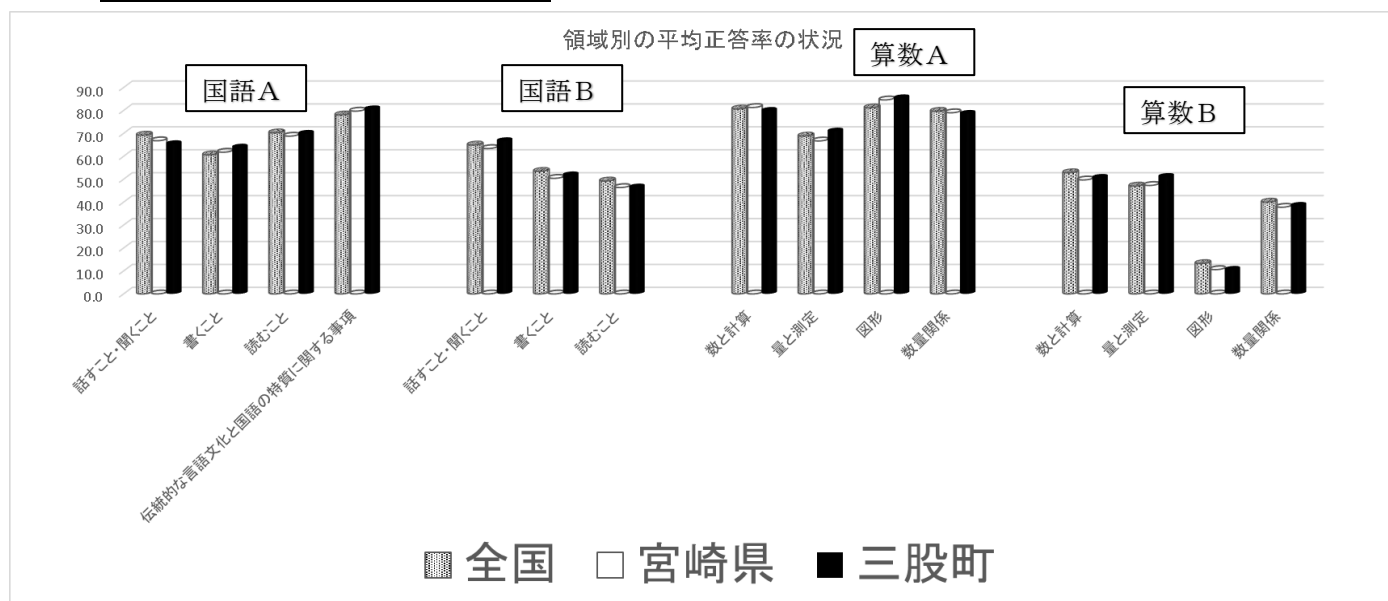
同程度	・・・	国平均との差が±1未満
ほぼ同程度	・・・	国平均との差が±1～3未満
やや高い（低い）	・・・	国平均との差が±3～5未満
高い（低い）	・・・	国平均との差が±5～7未満
相当高い（低い）	・・・	国平均との差が±7以上



■ 本町の結果概要

(1) 小学校

ア 教科に関する調査の結果



- 2教科の平均正答率は、全国平均と同程度の結果です。
- 国語Aについては、全国平均とほぼ同程度で、「書くこと」については、全国平均よりやや高い結果となっています。「話すこと・聞くこと」は全国平均よりやや低い結果となっております。
- 算数Aについては、全国平均と同程度です。「図形」は、全国平均よりやや高い結果となっております。
- 「活用」に関するB問題については、2教科とも全国平均とほぼ同程度の結果となっており、活用力を育むために授業改善を図ってきたことの成果が表れています。算数Bの「量と測定」では、全国平均よりやや高い結果を残すまでに向上しております。

イ 児童質問紙の結果

【生活習慣に関する主な項目】

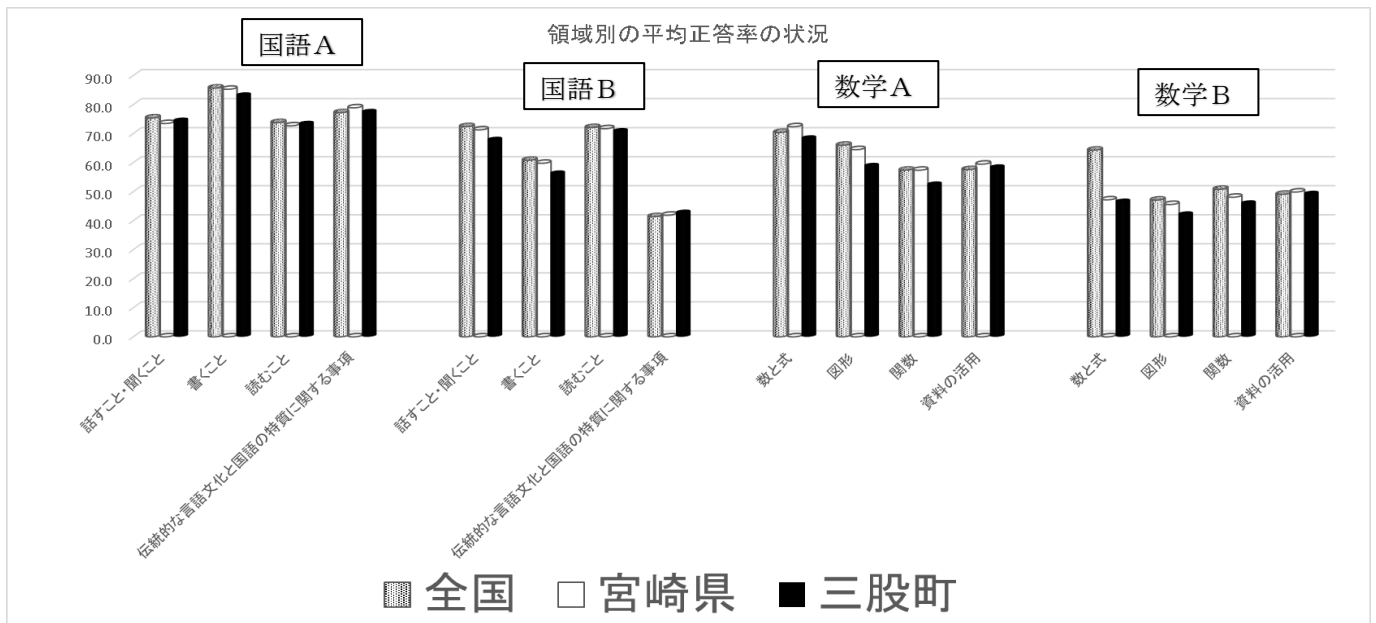
- 起床時刻や朝食など、基本的な生活習慣に関する質問に対しては、全国と比べて肯定的な回答（している・どちらかといえばしている）をした児童の割合がほぼ同程度にあります。
- 「将来の夢」に対する肯定的な回答の割合は、全国より高い傾向にあり、「物事をやり遂げること」「思いやりをもつこと」の大切さを感じている割合は、全国と同程度で、心身の健全な成長が図られております。
- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の項目は、全国と比較して相当高い傾向にあり、家庭学習の習慣付けが図られていることがわかります。
- 地域行事の参加など、地域への関心度については、肯定的な回答の割合がやや高い傾向にあります。
- 新聞を読む割合は、前回は調査では全国より低い傾向にありましたが、今年は全国とほぼ同程度に向上しております。

【授業に関する主な項目】

- 「授業での話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えることができる」と答えた児童が、前回は全国平均とほぼ同程度でしたが、今回は全国平均より相当高く、授業改善（話し合い活動の充実）成果が見られます。

(2) 中学校

ア 教科に関する調査の結果



- 2教科の平均正答率は、前回の調査と比べ、相当高くなっており、全国平均とほぼ同程度の結果です。
- A問題は、2教科とも前回の調査と比べ、平均正答率がやや高くなっており、国語Aは全国と比べ同程度、数学Aはやや低い結果となっており、基礎・基本の確実な定着を図る必要があります。
- B問題は、2教科とも前回調査よりも平均正答率がやや高くなっています。2教科とも全国と比べやや低く、活用する力に課題が見られます。今後は、基礎・基本の確実な定着とともに、新聞を活用した読み取りや、問題を解き、自分の解答の根拠を説明する活動など、知識・技能等を様々な場面において活用する学習活動（話し合い活動）を重視する必要があります。

イ 生徒質問紙の結果

【生活習慣に関する主な項目】

- 決まった時刻に起床することや、朝食を毎日食することなど、基本的な生活習慣に関する質問に対しては、全国と比べて肯定的な回答をしている割合がやや高い傾向にあります。
- 「将来の夢」に対する肯定的な回答の割合は相当高く、「自己肯定感」や「思いやりをもつこと」の大切さを感じている割合は同程度で、心身の健全な成長が図られていることがわかります。
- 新聞を読む割合は、前回の調査以上に全国より低い傾向にあり、今後は新聞記事をもとに対話するなど、社会の出来事にも関心をもたせることが大切です。
- 「読書が好きですか」の項目は、前回の調査以上に全国より相当低く、今後は本に触れる機会を多く設け、読む楽しさを感じ取るような取組が必要です。

【授業に関する主な項目】

- 授業では、発表する機会は全国平均とほぼ同程度ですが、学習活動の中での「話し合いの活動」の場面は、全国と比較して、相当低い状況にあります。
- 話し合い活動を通して、課題や情報等を整理して、発表するなどの学習活動が全国と比較して相当低いことわかります。よって、自分の考えをうまく伝えたり、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表することができる生徒の割合が全国平均と比較してやや低いことわかります。学び合いで考えを深める学習活動の工夫が必要です。